

## 2016年3月15日 SDJBA スピーチ ホブス(Hobbs)尚美：音楽エンターテイメント

東京渋谷区出身で、1999年よりサンディエゴに移住、サンディエゴ生まれ育ちの主人とパウウェイに住んで8年になります。

日本では、母校武蔵野音大ピアノ科講師を10年、2級建築士免許を取得しているので、日建学院という建築専門学校のインテリア・コーディネーター科の講師を4年勤めました。

サンディエゴに来てからは、Pioneer Ocean View 教会という日系2世の多い教会で音楽監督及び聖歌隊指揮者を5年勤め、その傍ら San Diego Community College で音楽、合唱とピアノクラス講師を勤めていましたが、今年で10年目になるのでこの春のセメスタから休職する事にしました。

**主な音楽活動**としては、渡米1年前の1998年に神奈川フィルハーモニックオーケストラとラフマニノフのピアノ協奏曲2番を共演しました。サンディエゴに来てからは、主に各地の公共図書館やホールでソロ及び連弾のコンサート活動を重ねています。

又コーラスグループ「ハーモニーズ」の指揮指導と編曲をしています。楽譜に顔を落として棒立ちで歌う従来の合唱団でなく、身振り手振りが自由に出来る様な、パフォーマンスを重視した指導をしています。これは、私に出来る形で、ここサンディエゴで日本の文化・音楽を継承したい、という気持ちから続けています。今年で13年目になります。

**賞** 2012年11月メキシコのメキシカリの国際ピアノコンクールで優勝。2015年10月、ワシントン州シアトルの国際ピアノコンクールではアマチュアの部金メダルを受賞しました。

### 「アマチュア」と「プロ」の違い

アマチュアは日本語では「愛好家」になり「趣味でやっている、演奏料など請求出来ない」というイメージですよね。「プロの様には上手くないからアマチュア」とも感じられます。アメリカでは一般的に、コンサート活動による収入が生計の半分以下だとアマチュア、半分以上ならプロの音楽家と呼ばれます。ですからアマチュアでもプロより上手な演奏家はいます。私の場合は、肩書きはコンサート・ピアニストですが、生計を立てている本職は「主婦」です。コンクールでの基準はそれぞれに違って、メキシコの場合は「ピアノの先生ならプロ枠」ですし、シアトルでは「4年卒ならアマチュア枠、大学院以上ならプロ枠」と言う基準だったり色々です。

### 「ピアノの先生」と「ピアニスト」の違い

教育者と演奏家ですので職種が違います。両方を兼ねる事は出来ますが、良い先生が良い演奏が出来ると限りませんし、りっぱな演奏家が良い先生とも限りません。

音大を出ると皆先生になって教えますが、実は音大では、個人教授のスキルを教える科目はありません。始めは自分の習って来た先生の教え方を伝授するだけ、経験を積んで自分なりの教え方を確立して行きます。

生徒は先生を選べます。もし音楽的指導力が自分や自分の子供と合わないと思ったら、又10年以上同じ先生についていたら、勇気を出して先生を変えて下さい。「先生に申し訳ない」と言う事はありません。

## ステージフライト

演奏家がいつも向かわなければならない「人前での緊張」の対策について。

演奏家でなくてもスポーツ選手でも誰でも注目を浴びれば「緊張」するのは当たり前ですが、「不安」と「欲望」と「自信のなさ」がそれを増大させます。「自分を良く見せたい」という欲が無くても、生きてる限り人前では上がります。あわてていつもの自分を見失う、頭の中が真っ白になる、動悸、めまい、震え、寒気、ほてり等の症状になります。

対策は、緊張に慣れてしまうしかないのです。基本的には、緊張してもやりとげる経験を積む事で、人前と自分だけの時との格差がちじまります。緊張した方が集中出来て良い結果が出る人もいます。直前は、他の事に気が散らない様に集中させる事も助けになります。例としては、直前までヘッドフォンをして周りの雰囲気になじめない様にする、パフォーマンス時の視線を決めておく、等です。対策としての飲食物は、コーヒー、コーラ等のカフェイン系飲み物は緊張を増大させるので飲まない、カリウム（神経と筋肉の働きを正常に保つ）を多く含まれるバナナを数時間目に食べるのはお勧めです。「音楽家の薬」としてベータブロック（高血圧解消薬）を1～2時間前に飲む事もプロの間では通常です。ソロの演奏家だけでなくオーケストラの団員でもしています。

**演奏料** について私の経験からお話ししたいと思います。

サンディエゴに来て間もない頃、コンサートを頼まれた時、「こちらで知名度ないし、料金を請求するのは何かおこがましいから無料でもよいか」と思い、他の音楽家に意見を聞きましたら、「無料で演奏を提供する音楽家がいると収入を得ようとしている他の音楽家の足を引っ張る事になる。言い難くても値段を設定して請求する事が音楽家同士、仕事を助け合う事になる」と言われました。

パーティー等ではケイタリングには3千ドルとか文句無く払うのに、エンターテイメントには「1時間でいいから\$70～100、でも時給で考えると良い金額と思わないか？」というイベントプランナーがいました。1時間の演奏をする為に4歳からレッスンを受けて準備しているとも言えるとは想像もつかない事でしょう。

私の経験では、最初の「仕事」が例えば\$100だったとしても、翌年、先方から再度頼まれた時には25%増額要求はリーズナブルの様です。

## レッスン代

一般的に音楽教育の費用はこちらでは日本の半額以下です。

私の場合は今頂いているレッスン代は日本での25年前のレッスン代と同じです。

大学教授、客員教授のレッスン代も、日本では2万～3万円が当たり前ですが、そのレッスン代もアメリカでは半額近く安いです。勿論、レッスン代の高い先生が良い先生とは限りません。数年前のカーメルヴァレー図書館のコンサートをした後に、中国人の父兄から「私の子供を教えるて欲しいのですがレッスン代は幾らですか？何回分か纏めて払ったらディスカウントはありますか？チケットの様な？」と聞かれたので、その考え方の違いに驚き、お断りしましたことがあります。今、特にアメリカのクラシック音楽界は中国人韓国人がトップを占めています。レッスンを始めて2年でコンクールに出場する子供も多いです。そういう中国人の子供は週2回のレッスンが普通の様です。その子達の先生がチケット制でレッスンしているかどうかは存じません。

最後になりますが、皆様の関係する会社やイベントで、特にピアノにからんだ音楽エンターテイメントが欲しい際は、お知らせ下さい。日系コミュニティの為でしたら、出来るだけ協力したいと思います。